

さわらび

たくさんの方参加者でした！

7月1日(日)、四万十市立中央公民館を会場として、「PTA・教育行政研修会」が開催されました。本校PTAからも、幡P副会長(市P会長)をしている松田さんを含めて6名が参加してきました。

13時15分からの全体会では、県内の子どもたちの学力や生活についての情報提供、「地域学校協働本部」についての紹介がありました。また、続いて行われた分科会では、『いじめ・ネットトラブル対策』『家庭から取り組む防災』『就学前教育の充実と保幼小中PTAの連携』というテーマに分かれて、熱心に意見交換がされました。「知ることが第一歩。ぜひ各PTAに持ち帰って広めてください。」というまとめをもって終了となりました。

今回から保育所・幼稚園の保護者や関係者の皆様にも声をかけたこともあって、250名あまりの参加者でした。参加された皆様、お疲れ様でした。



「藤岡の歴史」についての出前授業

6月28日(木)の総合学習の時間に、四万十市生涯学習課の川村慎也さんを講師に迎えて、「地域の姿と僕の仕事」という演題で話をさせていただきました。

- ①藤岡という地域
- ②僕のりれき書
- ③広がる世界
- ④好きなことをする

の4つの内容でした。話の中では、「『なんで?』を繰り返してみよう」と、生徒みんなに疑問を持つことの大切さも伝えてくれました。とても分かりやすくしてみんなが引き込まれた50分間でした。また、質疑応答でも「竹屋敷と藤岡の昔からの交流は?」「レンガの家が裕福だったのはなぜ?」「仕事をしていて楽しいときは?」などの質問にも丁寧に答えていただきました。

【お知らせ】四万十市立郷土資料館のリニューアルにも関わってこられたそうです。まだ公開できていないところも残っているようですが、7/22(日)には、普段見られないバックヤードの公開もあります。



読み聞かせ(6/26)

6月の読み聞かせがあり、今回は林政博さんが、『社会を明るくする運動』作文コンクールの入選作品を読んでくれました。「優しさあふれる社会に」という作文では、いじめにあった体験……母親がしんどい心に寄り添ってくれたこと、友だちが解決のために先生に相談してくれたこと、先生が具体的に取り組んでくれたことについてでした。みんな真剣に聞き入っていました。



■連載・読み物シリーズ「郷土の偉人」(『高知の道徳』から)

保育の父 ～佐竹音次郎④～

その後は、こうした音次郎の活動の話が広がり、大勢の人が音次郎を頼ってくるようになった。子どもたちが増えていくにつれ、医院の収入だけでは子どもたちの世話も生活も苦しくなり、音次郎はお金の工面に奔走しなくなりました。こうした苦しい時期に音次郎は、我が子を病気で亡くし、自身もひどく体調を崩して、一時、生死の淵をさまようことになる。しかし、その苦境の中であって、音次郎の天職に向かって邁進する思いは、暗い夜が明けるかのように、ついに開けていく。「保育院での仕事こそが自分に与えられた使命ではないか。命あれば、困っている子どもたちを育てること、このことに自分の生涯を捧げたい」と。

この思いが音次郎に生きる希望を与え、病状はみるみる快方に向かっていった。

神奈川県に戻った音次郎は、医院での仕事を止めて、鎌倉に「鎌倉保育園」を設立し、困っている子どもたちを受け入れ、育てることに専念するようになった。その音次郎の態度は、園の子どもたちのどのような言動も、それが「全て園父たる私の責任です。」「親が子どもを見放すということはありません。」と、我が子を胸に抱き守る実の親のそれであった。

音次郎は生涯、子どもたちに差しのべたその手を離すことなく、昭和15(1940)年に77歳で亡くなるまでに、外国の子どもも含め1571人の子どもを育てたとされている。

亡くなる前年、帰郷した音次郎は、郷里の「松」のかたわらに歌碑を建てた。

「己れ死なば死骸は松の根に埋めよ わがたましひの松のこやしに」

ただ一筋に、どんなときにも、どの子にも分け隔てなく愛を注ぎ、そのぬくもりを伝え続けた人。郷土の偉人、音次郎は、その遺言によって、故郷、四万十市竹島の父母のそばに眠っている。(おわり)

佐竹音次郎<1864~1940>

四万十市出身。東京で医者になり、神奈川県鎌倉市で医院を開業するかたわら、児童養護施設を開く。「保育」という言葉を初めてつかい、子どもを育てることは国の使命であることを多くの人に広めた。

熱中症に注意！！

雨が降って湿度が高く蒸し暑い日があったり、雨上がりに急に気温の高い日があったり……水分補給をしっかりと行って、熱中症にならないように気をつけましょう。体力が落ちないように、十分な睡眠や食事をきちんととることも大事です。例年、梅雨明けは7月中旬頃です。まだ梅雨空は続きそうです。